

# 全国 長南会 通信 75号

事務局 : 300-0301 茨城県稲敷郡阿見町青宿 930 長南秀則 TEL/FAX 029-887-3190  
発行日 : 令和 06 年 03 月 10 日



完成した棧橋

棧橋が津波で流されたため、仮の船着き場に降りたが、今回は立派な棧橋が出来上がっていた。

潮陽館の長南昭子さんには、御先祖の長南和泉守のお墓を 2003 年にお墓を改修して以来守っていただいている。— 2003 年（平成 15 年 9 月 4 日）長南和泉守・36 土墓改修記念式典が行われた。—



潮陽館で昭子さんとお話ししながら、昼食を頂いてお墓へと出発しようとしたら、雨が降り出したので、軽トラックを借りてお墓に向かった。最近お墓が棄損し、昭子さんが業者に修理を依頼したという。色々とお手配ありがとうございます。高台の共同墓地に着いて、長南和泉守と兼夫

## 寒風沢島へ

2023 年 11 月 10 日 寒風沢島へ久しぶりの訪問。常磐道を北へ、塩竈港に向かって出発。市営汽船に乗り換え寒風沢島に向かった。当日は雨降りの予報もあり天気は心配だったが、曇り空の中、松島湾を船は進んだ。

寒風沢島に近づくと、潮陽館が見えてくる。前回の訪問時は、



潮陽館

震災以来、島の人々の生活は一変してしまい、現在、復興途上であろうが、震災後、島の重点産業である漁業、特に牡蠣の生産は大打撃だったと思う。現在は島内に牡蠣の作業場が復活し、剥き牡蠣を出荷しているようだ。





和泉守と36士の墓

震災時に島の外に避難した人たちが戻って来られない、高齢化など島の課題は多い。

寒風沢水道には防潮堤が高く設置されていて、潮陽館の脇の空き地は芝生が植えられていて公園のようになっているなど、震災前とは島の景色が変わっていた。また、海的环境も変わって、アワビ、サザエ、ウニなどの生息の変化もあるという。

さんのお墓に昭子さんが用意してくれたお花と供物をお供えし、久しぶりに手を合わせた。

昭子さんには、お墓の管理について、お一人でお大変なご苦労を掛けていて、今後の運用については、私たちも考えていかなければならないと感じた。

寒風沢島は復興しつつあるが、島民の人口はかなり減っている。



供養塔



## 瑞巖寺へ

塩竈港から瑞巖寺へと向かう。松島の瑞巖寺境内に、長南和泉守が松島の島々に松を植えて美しい景観を作ったと、当時の和尚から頂いた賞状を全国長南会が復元し、賞状をそのまま刻んだ記



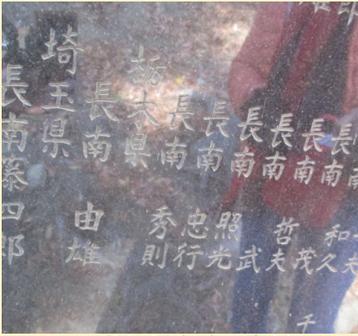
栽松記念碑

念碑が建立され、2004年11月30日に除幕式が行われた。これで名勝松島が長南和泉守と忠臣36士により成立した史実が世界に明らかになった。手前の杉林も長南和泉守が寄進した。

当時私も除幕式に参加したが、この日も楽しみに見学した。

石は山西省黒御影、高さ9尺幅3尺(272.7×90.9cm)上に雲居国師の賞状の文字をそのまま、下には現代語訳文(撰文中村就一氏)を刻んだ。中間の左右に松樹を入れた近代的石碑である。裏に碑の由来と寄付金者名を刻んだ。





裁松記念碑の裏側

長南和泉守が家臣を連れて房総半島から松島の寒風沢島にやって来たのは、1615年12月のことだった。

大阪夏の陣に豊臣方として参戦した長南氏は徳川方に追われるところとなり、身を隠すために寒風沢島に逃れてきた。長年住み慣れた地を離れた一行は11人だった。船旅の途中で一人が亡くなり、着いたときには7人に減っていた。逃亡先として寒風沢島を選んだのは、伊達政宗を頼って

のことだったという。長南一族は永く房総で「水軍」として活躍していたため、その力を政宗に見込まれ、仙台藩領内の松島に入ることを許されたようだ。

和泉守は後に海運業に進出して成功するが、政宗は彼らを平時には海運業者として保護し、戦時には水軍の一員として活用しようと考えていた。伊達水軍に長南一族が加わり、そのうちのひとりが政宗からもらった変名を使って水軍の長をした、という史料も残されている。

和泉守の船と前後して数十人の家臣がやって来た。彼らは寒風沢島の小さな入江に2隻の大船をつなぎ、一年半ほど船上生活をした。持ってきた刀や鉄砲を手入れし、再び豊臣方が挙兵するのを待ったが、やがてそれはかなわぬ時勢であることを悟って船を降りた。

寒風沢島に住み始めた和泉守らはやがて島の入江を埋め立て、大船もつ



瑞巖寺参道

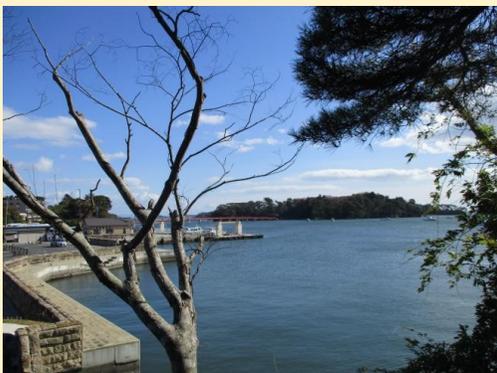
なげる港を造成し、船乗りの腕を生かして海運業をはじめた。仙台平野の米を大消費地の江戸へ運ぶ回船問屋「長南屋」を開いたのだった。以来、和泉守の子孫たちはこの地で回船業を発展させ、寒風沢島を交易の拠点にした

和泉守が松島の島々に黒松を植えるようになったのは、海運業が軌道に乗ってしばらくしてからだった。瑞巖寺住職に迎えられた雲居国師が植林運動を提唱、これに応えたものだ。国師が着任した当時、塩釜から瑞巖寺にかけての松島海岸の風景は貧しいものだ。製塩が盛んだったこの一帯は塩づくりの燃料として海岸の松を片っ端から伐採していた。

また、松島の島々も赤松だけで、それはどの景観ではなかった。

始めに植えたのは海岸だった。交易の途中の浜松から黒松の種子を持ち帰り、育てて植林した。これを手治めに島々にも目を向け、晩年和泉守は家業を2代目に任せて、自らは1族の老と島々を回って黒松を植えた。

和泉守は75歳で他界する数年前までこの活動を続け、松島の今日の景観の礎を築いた。国師から感謝状を贈られたのは、彼が60歳のときだった。



松島湾

# 年会費ありがとうございます。

2023/12/31 現在

氏名	都道府県	会費納入日	会費	氏名	都道府県	会費納入日	会費
長南 一男	北海道	2023/03/06	3,000	長南 武	茨城県	2023/07/02	12,000
長南 正道	北海道	2023/03/03	2,000	長南 国男	茨城県	2023/02/25	3,000
長南 武次	北海道	2023/03/15	2,000	長南 信雄	茨城県	2023/02/28	4,000
芦原 貴美大	北海道	2023/03/09	2,000	長南 新一	埼玉県	2023/03/19	4,000
長南 進一	北海道	2023/07/08	2,000	長南 俊春	埼玉県	2023/06/10	30,000
鈴木 由美子	宮城県	2023/04/11	3,000	長南 孝一	埼玉県	2023/07/10	3,000
星川 十一	宮城県	2023/03/09	3,000	長南 覚	埼玉県	2023/02/24	2,000
長南 征二	宮城県	2023/02/27	3,000	長南 邦年	埼玉県	2023/02/25	2,000
長南 慎一	宮城県	2023/04/07	3,000	長南 亘	埼玉県	2023/03/08	2,000
長南 恵	宮城県	2023/03/14	4,000	長南 宏治	埼玉県	2023/03/20	2,000
長南 良彦	宮城県	2023/03/14	2,000	長南 仁志	埼玉県	2023/03/02	10,000
長南 政直	宮城県	2023/08/15	3,000	近藤 忠行	千葉県	2023/03/02	2,000
長南 正	山形県	2023/03/03	2,000	長南 誠一	千葉県	2023/02/28	2,000
長南 利幸	山形県	2023/03/09	3,000	長南 隆	千葉県	2023/03/09	3,000
長南 成	山形県	2023/02/27	5,000	森川 剛典	千葉県	2023/04/25	2,000
長南 源一	山形県	2023/03/01	2,000	長南 英次郎	千葉県	2023/02/08	2,000
長南 光	山形県	2023/03/06	2,000	長南 克夫	千葉県	2023/04/04	2,000
長南 厚	山形県	2023/03/01	2,000	長南 弘美	東京都	2023/02/27	4,000
長南 賢一	山形県	2023/03/07	5,000	長南 章彦	東京都	2023/03/24	2,000
長南 儀一	山形県	2023/02/28	2,000	長南 昌幸	東京都	2023/03/08	2,000
長南 吉美	山形県	2023/03/02	10,000	長南 充浩	東京都	2023/02/27	2,000
長南 勝幸	福島県	2023/03/02	2,000	長南 晴章	東京都	2023/03/06	2,000
長南 仁	福島県	2023/04/12	5,000	長南 恒弘	神奈川	2023/03/08	2,000
長南 太一	福島県	2023/02/24	3,000	長南 一夫	神奈川	2023/04/05	2,000
長南 政幸	福島県	2023/08/21	5,000	西海 清	神奈川	2023/02/28	2,000
長南 昇次	茨城県	2023/03/14	3,000	坂上 美智代	神奈川	2023/03/09	2,000
長南 幸雄	茨城県	2023/04/10	5,000	白井 ヒサエ	愛知県	2023/03/10	2,000
長南 秀則	茨城県	2023/03/20	10,000	長南 鉦一	滋賀県	2023/03/01	2,000
長南 照光	茨城県	2023/02/22	12,000	長南 喜善	京都府	2023/08/04	2,000
長南 哲夫	茨城県	2023/04/17	2,000	長南 忠直	奈良県	2023/02/28	2,000
長南 清	茨城県	2023/02/27	2,000	合 計			229,000

# 決算報告

2023/01/01 ~ 2023/12/31

摘要	収入	支出
会費	229,000	
受取利息	9	
和泉守墓管理費		60,000
紅花祭協賛金		10,000
長南会通信印刷代		24,874
長南会通信発送代		21,810
旅費交通費		152,528
通信費		2,324
接待交際費		19,845
事務用品費		17,899
図書費		-
雑費		17,454
合計	229,009	326,734

現金	11,546
普通預金	559,410
当座預金	15,312
残高	586,268

前期繰越	683,993
収入	229,009
支出	326,734
残高	586,268

## 令和5年度 年会費納入のお願い

振替用紙を同封しますので、年会費1口2,000円をお振り込みください。  
郵便局のキャッシュカードをお持ちの方は、振替用紙を使用しないでATMから次の口座にお振り込みください。

**全国長南会 記号 10650 番号 13085711**

ATMからだと、手数料（会負担）が無料になります。

全国長南会の運営のため、ご協力お願いします。

## ご冥福をお祈りいたします。

全国長南会副会長の長南武さん（茨城県阿見町青宿）が令和5年12月28日逝去されました。82歳でした。生前は心穏やかで皆さんに慕われた方でした。寒風沢島や瑞巖寺、鶴岡市等ご一緒したことが思い出されます。心からご冥福をお祈りいたします。



本当に大事なこと

## — 人生儀礼 — 成人式

『七五三』という節目を越えると、ご家族・ご親族の皆様は「ホッ」と一息。子供たちは、いよいよ本格的に 将来を見据えた「勉強」の道に入ります。やがて進路に見通しがつくころ...? 『成人祝い』の儀式を迎えることになります。最近『成人式』と聞くと、眉をひそめる方もいらっしゃることでしょう。それもそのはず... 厳粛な式典の時に、昔では考えられない「乱暴狼籍らんぼうろうせき」を繰り返す若者が後をたちません。『成人式』こそ、一人の人間として「成人」を自覚するための人生最大の神聖な儀式なはずなのに...? そこで、今回は「成人式」の真意を質す意味ただにおいても、歴史を振り返りながら解説をしていきたいと思います。世界中どこの国においても『成人式』は、数ある人生儀礼の中でも最も古い儀式であります。ヨーロッパでは紀元前から行われていましたし、もちろん、日本におきましても飛鳥時代に始まり、奈良時代には確立された儀式として書物に記されているのです。男女共に、肉体的にも精神的にも大人になる事を意味する点や、不安定な靈魂がこれを機に安定に向かうという点は、世界共通なのです。日本人の『成人式』も、もとはそれらの意味において行われていたもので、皆さんもよくご存知の「冠婚葬祭」という言葉の「冠」が、飛鳥時代から伝わる『成人式』の儀式のことを意味するのです。「冠」とはくかんむり<のことで、奈良・平安時代の貴族社会では、男子は12才になると髪を束ねて切り揃え「冠」をかぶって一人前の証しとされました。また、「冠」をかぶることを「元服」といい、かつて『成人式』を「元服の祝い」と称したのはこのことからなのです。ちなみに当時の女性は、13歳にし

て母になれる 身体になることから「成人」とされました。一方、庶民においても貴族にならい12歳が成人とされていました。しかし、時代が進むにつれて農業が中心に考えられるようになり、より現実的になり田畑において一人前の仕事ができる事や、神事（両親、公に感謝し、社会に貢献することを誓うお祭り）に参加できる事... という観点から、15歳となり、やがて18歳と変化していきます。逆に、仕事が一前でなかったり、神事に参加しない場合は「成人」とはみなされない時代もあったようです。このあたりは、現在の20才になれば誰でも「成人」という考え方とは随分違っていますね!

昭和23年に「国民の祝日に関する法律」で『成人式』の条文には次の通り記されています。

『大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ます』と、謳っています。昔と今を単純に比べることは少し問題があるとは思いますが、祝われる方にこの歴史や法律を少し勉強して頂けたら、『成人式』はきっと感動と感謝に包まれるに違いありません。

## — 人生儀礼 — 厄年

『成人式』という節目を越えると、それぞれが大人の自覚を持って、社会的責任を意識しながら日々の生活を営むようになります。大人として生きる時、人は多かれ少なかれ社会的責任を免れることはできません。この「社会的責任」の重圧と、実は深くかかわっている人生儀礼、『厄年』についてお話しをさせていただきます。まず、一般的観点から見た『厄年』について解説いたしましょう。『厄年』とは、一生の中で最も運氣低迷の年に当たり、災厄が起こりやすい時期として忌み慎まれた特別な年であります。地域によって多少ことなる場合もありますが、おおよそ厄年の年齢は

数え年で数え、男性は25・42・61歳、女性は19・33・37歳を本厄年といえます。そして、その前後を「前厄」「後厄」といって、この3年間は「用心して過ごす年」とされています。しかし、一方この年齢は人生で一番重要な年齢ということもいえるので、「用心して過ごす年」ということは、消極的や後ろ向きに...ということではなく、むしろ、気を付けながら積極的かつ前向きに過ごすということなのです。しかしながら、人は『厄年』を自覚したとたん「厄年は嫌いだ!」と気に病んで過ごしてしまいがちになり、どうしても臆病になってしまう人も少なくはないでしょう。そこで、古来より伝わる

「厄稜・厄落とし」などにより「厄年」を「役年」に変え、清々しく躍進の年として過ごすという習慣が連綿と続けられてきているのです。さて、ここからが本論です。中世、つまり農耕社会においては「厄年」の年齢は、男女共にそれぞれ、村々で立派な指導者になる年齢に当たりました。それゆえ、責任の重さを心身ともに感じ、それぞれの立場に相応しい存在になるには、並々ならぬ努力を要したことでしょう。現代においても、男性の25・42歳といえば将来を決定付ける極めて重要な年齢です。また女性の19・33・37歳は、将来の事、子育て、子離れ後の役目...と母親としての在り方等、人生の大きな節目となります。このように『厄年』には、大いなる努力と忍耐が必要となり、さまざまな選択を迫られる年なのです。結果、心身ともに重圧が大きくなるわけです。そこで、『厄稜・厄落とし』をするわけですが、これがどのようなことなのかを説明したいと思います。ひとことでいえば、神様に「もう、大丈夫!」という「元気」を戴きに行くということです。人間は期待が高まれば高まるほど、不安が付きまとうものなのです。たとえば、子供が産まれると立派な成長を期待します。反面、病気・怪我等が心配になり、あまり外には出さず、過保護で消極的な人間にしてしまう恐れが

あります。『厄年』も同様に、期待が高まり不安が忍び寄るということになるので、チャンスを逃してしまうことになりがちです。そこで、『厄載・厄落とし』のお受けを受けると...もう、大丈夫という元気を戴き、重圧から解放され、これまでの自分の生き方を見直すことにより、改めて清く・明るく・正しく・直き心で過ごして行こうと決心して前向きに過ごせるようになるのです。結果、この時期に発展の基礎作りができて、よりよい人生を送れるようになるのです。つきつめると「不安」＝「厄」ということができます。皆さんも不安を解消して期待を伸ばし、清々しい毎日をお過ごし下さい。

## 一人生儀礼一 還暦

「人生儀礼」を一つ一つ越え、「厄稜」を節目節目に行うことで、人はその折々に心身ともにリフレッシュします。そして、それを機に初心に戻り、改めて新しい一日を迎えることで、充実した人生を歩むことができます。これこそが、「日本人特有の人生観」ということがいえるでしょう。人生儀礼の後期に迎える節目が『還暦』という儀礼です。『還暦』とは、文字通り「暦」が「還」という意味です。「還」という字を辞書で調べると、「円をえがいてもとへもどる。いったものがもとの場所にもどること。」と出ています。つまり、『還暦』とは人生のスタートを刻む「生まれた日」から、長い道のりを歩き続け、幾多の困難を乗り越え、円をえがくようにして、やがて「生まれた日」にもどるということです。これを具体的に解説すると、次のようになります。平成二十二年を例にとってみますと...生まれ歳は「庚寅歳」です。この「庚」が十干、「寅」を十二支と呼び、これらを合わせて『干支』と称します。そして、この年に生まれた人が次の『庚寅歳』の干支を迎えるのは60年後なのです。以上のとおり、『還暦』とは、「生まれた年の

干支に還る」という意味なのです。「還暦」も「厄年」に当たるので、前述のとおり「心身ともにリフレッシュして、新しい一日を迎えるために」お稜いを受けます。しかし、これまでの「厄年」とは少し趣が違ってきます。正確には、年祝いの厄年といえるでしょう。古くは、人生40年とも、50年ともいわれており、60年ともなれば長寿ということになりました。そこで、「あなたは、一つの人生を立派に生ききりました。とてもおめでたいことです。」という年祝いをするるとともにご褒美に神様から新しい命の再生を頂きましょう。ということで赤ちゃんに戻るために、赤いちゃんちゃんこと赤い頭巾を贈られ、生まれた時に行った『初宮詣』同様に、厄を祓って、再生を祝福するのです。

いかがでしたか？なぜ、『還暦』に赤い

ちゃんちゃんこを贈る習慣があるのか。なぜ、「厄年」？という疑問が解消されましたでしょう。もちろん『還暦』の後も年祝が待っています。人生70、古希稀なり・70歳。「喜」の字を崩した喜寿77歳。「傘」の字にちなんだ傘寿・80歳。「米」の字にちなんだ米寿・88歳。「卒」の字にちなんだ卒寿・90歳。100の字から一をとった白寿。99歳。というおめでたいお祝いが続くのです。

人生の節目に再生をするという日本人の人生観を「常若<sup>ことわか</sup>」と表現します。これは・常に若々しい心を持ち、新鮮な毎日を送るというすばらしい考え方にほかなりません。皆さんもどうぞ「人生儀礼」を今一度おさらいしながら「常若」の人生を歩んでいきましょう。



### 鎮守氷川神社第36世宮司

すずきくにふさ  
鈴木邦房

埼玉県川口市青木5-18-48

日本の将来を見据え、故高円宮殿下を始め、日本を代表する芸術家・文化人（横尾忠則・安藤忠雄・さだまさし等々）との対談する機会を得て「不易流行」の基本を学ぶ。ラジオの生番組で「日本文化の安泰と世界平和」の祝詞を奏上。さらに各方面での講演会を展開する。國學院大學文学部神道学科86期卒業

※「不易流行」 いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものも取り入れていくこと。

今年もよろしくお祈りします。  
皆様の益々のご健康とご多幸を  
心からお祈り申し上げます。

令和6年

